

会 議 記 録		記録者	担当チーム
会 議 名	令和6年度未来の養父市を語るタウンミーティング		
期 日	令和6年7月10日（水）19：30～21：30		
場 所	口大屋高齢者コミュニティセンター		
出席者	市民	26名	
	市役所	広瀬市長、米田教育長、羽瀧経営企画部長、世登健康福祉部長、細田産業環境部長、柳川まち整備部長	
		（事務局）経営政策・国家戦略特区課 栗田、藤原、北添	
	担当チーム	向、池田、釜谷、谷垣	
<p>「テーマ1 地域内の移動手段について」</p> <p>自治協議会で事業をする際、参加者のための地域内での移動手段が課題。</p> <p>「のじぎくの会」や「ことぶき大学」のような高齢者の参加者が多い事業や誰でも参加できる「ふれあい喫茶」を開催するなかで、地域内でもっと使いやすい移動手段があれば、これまで参加しにくかった方々に参加してもらいやすくなる等の効果があるのではないかと期待している。</p> <p>いろいろな制約があることはわかるが、現在の方法に加えて新たな仕組みの検討を考えることができないか。</p> <p><b>市民：</b>やぶくるについて、時間調整や個人負担の軽減などもっと利用しやすくする方法を考えていただきたい。</p> <p><b>まち整備部長：</b>やぶくるの料金はタクシー料金の70から80%で設定している。市内交通事業者等と調整して料金を設定しているのでご理解いただきたい。</p> <p>高齢者の方に対しては利用目的に制限がないタクシー助成券（上限6万円）がある。やぶくるでも利用できるものでぜひ活用していただきたい。</p> <p>将来に向けて路線バスのデマンド化や小型化を検討していきたい。そういうサービスが実現できれば、より安い料金で利用していただけることが可能になる。</p> <p>デマンドバスとは、予約制と理解していただければと思う。現状はバス会社が決めた時刻表に従い、停留所に行く必要がある。デマンドは利用したい方が、希望の時間にミーティングポイント（現状の停留所をより細かいポイントで再配置するもの）での利用ができるようになる。なるべく近い将来実現できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>また、今年度の秋に自動運転バスの実証実験を予定している。地域の移動手段として有益であるとの結果が得られれば様々な地域で活用できると考えている。デジタル技術の活用を積極的に取り入れて地域の移動手段の確保に努めていきたい。皆さまぜひ実証実験に参加をお願いしたい。</p> <p><b>市民：</b>年金生活をしている高齢者にとってやぶくるの利用料金は大きな負担である。料金設定の背景は理解できるが、自身が高齢者になった時にその料金を負担できるか不安である。</p>			

**まち整備部長：**年金生活の方にとっては負担となる金額であることは承知している。なるべく希望に添えるようきめ細やかな丁寧なサービスの構築を目指していきたい。路線バスのデマンド化が実現できればより安い料金で利用していただけることが可能になるので実現に向けて努力していきたい。

**市民：**バスは停留所にしか止まらず、そこまで行けない方にとってはタクシー、やぶくるが重要になってくる。もっと利用しやすくするためにタクシー会社も含めて料金を考えていけないか。

**まち整備部長：**やぶくるの運営はNPO法人であり、その中にはタクシー会社も名を連ねている。やぶくるの利用料金の配分について、70%が運転手、25%がNPO、5%がタクシー会社に入るという仕組みである。4月1日から八鹿地域、養父地域の6拠点のスポット運行を開始しており、この場合は70%が運転手、25%がタクシー会社、5%がNPOという仕組みになっている。

タクシー会社がやぶくるのような事業を行うことも可能となっており、将来的にこの仕組みをタクシー会社に使ってもらえればと期待し、事業者への働きかけを行っている。

**市民：**やぶくるの走行ルートについて、大屋からトライアルに行くのに琴弾トンネルを通行できないという話を聞いたが本当か。

**まち整備部長：**目的地ごとに料金設定が決まっており、もしかすると料金設定が国道9号線経由ではなく県道経由（養父まわり）になっていることが考えられる。ルートと料金設定の確認を行う。

（回答）大屋からトライアルに行く場合は、国道9号線を通るルートとなる。料金においても、国道を通るルートで設定している。

## 「テーマ2 県道の整備について」

県道由良バイパスについて、過去にタウンミーティングの議題に上がったこともあるので、現在の進捗状況を報告して。；：いただきたい。

**市長：**兵庫県が整備するものであり、実施の方向で着実に進んでいる。地域の方への全容の説明はまだないかと思うが、着実に進んでいることを報告させていただく。

**まち整備部長：**県から提示されたスケジュールをお伝えする。令和6年度から令和7年度に測量調査設計、令和8年度から令和9年度に用地買収、令和10年度から令和13年度にかけて工事を行うと聞いている。

**市民：**設計にあたっては、水害に巻き込まれないようなものにしていただきたい。

**まち整備部長：**市からも県に伝えるが、地域の皆さまからも地元説明会等において県に伝えていただきたい。

**市民：**樽見の県道も狭い場所があり降雪時には非常に危険。県から事業化が立ち消えになったと聞いているが、市の力で何とかしてもらえないか。

**市長：**危険性については認識しており、市からも県に言い続けている。由良バイパスとあわせて実施してほしい。引き続き要望を続けていくので、皆さまも声を上げて続けてほしい。

**市民：**カーブの辺に1軒家があり、見通しが悪く大型車が来ると非常に危険である。道路整備の前に立ち退き等をしていただき見通しをよくすることが重要かと思うがどうか。

**市長：**非常に見通しが悪いのは認識している。県へしっかりと要望していきたい。

**まち整備部長：**口大屋地区の方からも様々な要望をいただいている。応えられるもの応えられないものがあるが一生懸命対応させていただいている。県道の狭隘な部分の改良について、要望に上がっていないように思う。次回要望書をあげていただく機会があれば上げていただき、県へつながせていただく。

**市民：**9月に口大屋地区の区長が集まる機会があるがその際に要望書をまとめたほうが良いか。要望は上げれば回答をいただけるという認識でよいか。今回の話は一方通行にならないか。

**市長：**そのように対応していただいてもよい。この場で聞いた話への文書での回答は無いが、一方通行ではなく県につながせていただく。

**まち整備部長：**要望をいただいて回答しないということはない。何らかの回答はさせていただいている。複数の区が連名で要望書を出していただくことも可能。

#### 「市政全般についての意見交換」

**市民：**養父市出身者が市内で就職する場所がない、大学卒業後の就職先がなく帰って来れないという話があった。企業誘致等を進めてもらわないと老人ばかりのまちになることが目前に迫っている。

**市長：**有効求人倍率をみると、仕事を提供している方が多いが、若者が就きたい仕事があるかという点が少ないかもしれない。クリエイティブな仕事を我々がどう作っていくのが重要であると考えている。

工業団地の企業が拡大し工場を建設したいという話がある。市も応援している。若者が働きたくなるという視点が重要。デジタルの活用や農業も従来のものでは難しいが、ドローンの活用・半自動トラクター、AIの活用などをすれば若者にとって魅力的かもしれない。若者から見て都会的センスが感じられるような仕事を作ることが大事であり、努力しているところ。

デジタルが進みリモートでの会議が多くなっている。今後は都心で行っていた仕事

が養父市でもできるようになるかもしれない。必要な時だけ会社に顔を出すという勤務の仕方も考えられる。若者にとって魅力的な仕事とは何かを考えている。

**産業環境部長：**6月議会でも同様の質問があった。直近の有効求人倍率は1.3から1.5ほどで推移している一方、職種の幅が都心部ほど広くないので、仕事がないと思われるのかもしれないが、市には魅力的な企業が多数ある。市内の企業ガイドブックの作成・配布やインターンシップを通じて、市内企業の魅力発信に努めているところである。また、新たな業種を呼び込むという観点では、ビジネスプランコンテストを行い、都市部の起業家と市内企業をつなぐような取組も行っている。こうした取組を通じて産業振興を進めていきたい。

**市民：**将来のことを考えるのは子ども。子どもたちへのアンケート等を実施し、就きたい職種等の意見を把握するべき。その結果を踏まえて企業を誘致するという考え方をしていかなければならない。養父市に帰ってきたい子どもは多いと思う。住むところと働き先がネックとなっているとの意見が多いと思われるので、しっかりと考えていただきたい。

農業について、近所でもあと数年したら耕作放棄地が出てくる。今は機械があるから何とかやっけていけている。米作りをしても採算が合わない。採算が合わないから、後継者もできないし、親も継がせたくない。大きな問題である。この辺りを詰めていただき、何かいい案を出していただきたい。

**市長：**米は採算が合わない。後継者も少なくなっていき、農地も荒れてくる。条件不利地ではあるが農業、農地を守るように国と協議しているところ。農業を残していないと養父市の誇りは守れない。

若者たちが何を望んでいるか聞いてみる必要がある。中学・高校では自分が何をしたいのか漠然としているのが現状。大学生あたりで気付くことが多いのでここをターゲットにする必要がある。

**産業環境部長：**若者の求める職種について、都市部に出ている大学生等の意見を把握することも重要であり、例えば「二十歳のつどい」の際に聞いてみることも一案かと思う。

農地の維持のための予算を国が確保することが大事であり、市も同様である。戦後の食糧難の時代ではないので、他分野に比べて農業の重要性を低く捉えられがちだが、農業の果たす役割は多面的にあり食料供給のみではない。この辺を若い人にも理解していただき、予算の確保に努めていく。

農地を残していくという観点では、10年後の目標地図を含む地域計画の策定が法定化され、市全体で話合いが50地域程度進んでいるが、口大屋地区では進んでいない。地域計画に位置付けられ、引き続き農業を頑張っていく方に対し、農機具等の購入を補助する制度を今年度から設けている。補助率1/2、上限100万円（+αの取組で最大150万円）というもの。農業機械が壊れて使えなくなることが農業を断念するきっかけとなるとの声を踏まえた施策である。

**市民：**オンライン診療について、直接利用することは無かったが病気になったときに

オンラインで診療ができるということで登録をした。マイナンバーカードとやっふるカードを一体化してオンライン診療への活用ができないか。

自身が病気で動けないときにオンライン診療を受けられるのであれば、スマホからボタン一つで受けられるようになればうれしい。高齢者にとってはスマホもオンラインも難しいと思う。高齢者へのスマホ教室で遠隔で医療も受けられることの周知をしていただければいいと思うし、利用率が向上すると思う。実現してほしい。

**健康福祉部長：**オンライン診療について、昨年度から大屋診療所と明延振興館でオンライン診療の実証実験を行っている。自宅ではなくて、明延の集会所の一室を診察室とし、看護師を派遣してオンラインでつないで診療を行っている。

今年度からは移動式診察室ということも実験的に取り組んでいきたい。車に乗った診察室のイメージ。これであればより細かなスポットで診察できると考えている。

中山間地域・へき地地域であるので、医療を安定的に確保することが重要であると考えており、積極的に実証実験等に取り組んでいきたい。

マイナンバーカード保険証も国が進めており、既往歴や投薬履歴、病状などをデータで共有できる。初診の病院でもわかるようになるので大変便利であると考えている。

**経営企画部長：**マイナンバーカードを活用して、在宅で行政手続きができるようにシステムを整備している。現在約400件の手続きがオンラインでできるようになっている。住民票や税証明などコンビニ交付もマイナンバーカードがあれば幅広い時間帯で、手数料も安く利用できる。各種給付金をデジタルクーポンとして給付させていただいた。今年度は歩数ポイントの仕組みを作った。快適な暮らしの実現に向けて進めているところである。

**市民：**社会的処方について、今は自治協へ月1回コミュニティナースが来られ、血圧測定や日常生活の相談を行っていただいている。その際に自治協へ来られる方はいいが、自宅で孤立している方もいると思う。このような方への対策はどのようなものがあるのか。

**健康福祉部長：**孤立を防ぐ取り組みとして、医療機関と連携して、医師から紹介を受けた方（本人の同意を受けた方に限る）に病気だけではなく、生活環境も気になる方を市に紹介してもらい、市職員が出向いて話を聞くということをしている。引きこもり対策は社会福祉法人に委託し、専用相談窓口の設置や地域の方が集まる場所へ粘り強く誘導するなど孤立・孤独から解消できるよう連携して行っている。地域では民生委員とも連携しており、孤独等を感じている方を見かけたら民生委員や市に相談していただきたい。日々の声掛け等により気にかけているということを確認してもらおうことが重要である。

**まち整備部長：**社会基盤整備の情報共有について、工業団地の企業が規模拡大を予定している。あわせて農道を市道認定し、拡幅工事を行う。秋ごろ着工の予定。地元説明会を開催するので協力をお願いしたい。